

新ど研 銭湯で学ぶカルチャースクール「ふろカル」 第3弾は夏休み特別企画 銭湯で理科研究！巨大しゃぼん玉づくりに挑戦



株式会社北海道博報堂（札幌市中央区）の研究組織「新どさんご研究所（以下、新ど研）」では銭湯から北海道の文化を発信するプロジェクト「ふろカル」の第3弾を開催いたします。第3弾は「銭湯で理科研究？！わくわくふくらむしゃぼん玉」と題し、講師に映像クリエイターのかとうたつひこ氏を迎え、巨大しゃぼん玉づくりに挑戦いたします。

かとうたつひこ氏は映像クリエイターとして札幌を中心に、ライブハウス、野外イベント、カフェでのイベントなど場所を選ばないスタイルでご活躍されており、そのひとつとして、子どもの玩具として馴染み深いしゃぼん玉を自在に操り、しゃぼん玉の幅広い楽しみ方や視覚的な魅力を発信されています。

今回のふろカルでは、しゃぼん玉の仕組みや液の作り方を学んだあと、実際に大きなしゃぼん玉を飛ばす実験も予定。子供も大人も楽しめる、体験型講義として開催いたします。飛ばして楽しい、つくって楽しい。不思議なしゃぼん玉の世界をのぞいてみませんか。

日時	2019年8月4日(日)10:00~12:00（開場9:30）
会場	福の湯 札幌市北区新琴似7条6丁目6-1
講師	かとうたつひこ
参加費	大人1,010円 子ども500円（入浴料込）
定員	15組30名程度

◎ふろカルの詳細、お申込みは特設サイトをご覧ください。

特設サイト：<http://www.fulocal.net>

◎ふろカルの最新情報は、ふろカル公式SNSをご覧ください。



@fulocal



@fulocal



@fulocal_net

開催当日、取材対応させていただきます。
お問い合わせ、ご質問などは下記お問い合わせ先までお願い致します。

■講師紹介



かとうたつひこ

映像クリエイターとして、OHP(over head projector)や絵の具等を使いライブにおける映像演出を中心に活動中。その中で、太陽の光を使った演出として巨大なしゃぼん玉の研究を開始。最大直径4mにもなる、中に浮かぶしゃぼん玉は老若男女問わず心を掴めると確信。様々なイベントや公園にてデモンストレーションを行い、好評を博している。使用するしゃぼん玉液等の道具は全て手作り、99%自然に帰るしゃぼん玉液の製作に成功。また、子供達に配慮し目に入ってもしめない成分で配合している。

■会場紹介



福の湯

1971年創業。札幌市北区の住宅街に位置し、古くから地元住民に親しまれている。現在の屋号である「福の湯」には、「入浴されたお客様が幸福な気持ちになれますように」との願いが込められている。石油式でお湯を沸かす銭湯が主流とされる中、材木を利用し沸かしており、利用客からは「お湯が軟らかい」と評判である。

ふるカルとは？

株式会社北海道博報堂の研究組織「新どさんご研究所」が企画・主催するカルチャースクールイベントです。

人々のコミュニケーションに役立っていたまちの銭湯は、札幌市内でもここ20年で143軒から39軒にまで激減しています(※)。孤立化やつながりが希薄化する中で、改めて銭湯の魅力を発信し地域活性化に貢献していきたい。新ど研は、そのような思いで銭湯を文化の発信基地とするプロジェクトを始動いたしました。「ふるカル」では、北海道内で活躍する人を特別講師に迎え、銭湯のロビーや脱衣所を教室にしたカルチャースクールを開校いたします。

※ 厚生労働省「衛生行政報告例」等より



～過去のふるカルの様子～



【新どさんご研究所 概要】

北海道民の今の姿をデータで明らかにしながら、「一歩先の北海道民＝新どさんご」と定義して、その変化を予測・提言する(株)北海道博報堂が設立した研究組織。



新どさんご研究所 所長 山岸 浩之

やまぎし ひろゆき

2014年北海道博報堂入社。コミュニケーション戦略局長兼マーケティング部長として、北海道の様々なクライアントの戦略立案やリサーチを担当。博報堂生活総合研究所 客員研究員。